

令和8年7月18日

調 査・研 修 報 告 書（会派個人用）

会派名：さとやま未来クラブ

報告者：木山 義仁

実施場所：リファレンス広島小町ビル (広島市中区小町 3-19)	実施日：令和8年7月11日（土）
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） ○議員として必ず理解すべき、決算審査のポイント並びに決算審査から次年度予算への要望の進め方の理解と習得。	
■参考とすべき事項 【予算審査について】 ○無駄な事業の見直し、必要な事業への予算配分、行政サービスの改善を実現すること、成果を問うことが議員の役割。 ○現状認識だけを聞く質問、抽象的な質問は避けるべき。 目指すべき質問：制度改善、予算改善、事業改善、成果向上踏み込むことが重要 ○予算審査のうえで重要となる資料：決算カード、決算審査意見書、予算編成方針、流用一覧、廃止事業一覧。これらを見ることで行政運営の実態が見えやすくなる。 ○A I の積極的な活用 A I は、修正案作成、条例比較、予算分析などで活用。 A I で作業時間を短縮し、その分、市民との対話や政策立案に時間を使うべき。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ○個別の事業について、「目的」「成果」「課題」「改善策」を確認する。成果が出た事業は拡充、効果の低い事業は改善・廃止という形で翌年度予算へ反映。 ・決算カードを最大限活用 決算カードは「財政状況」「基金残高」「地方税」「交付税」「職員数」「類似団体比較」「徴収率」などを一枚で把握できる。決算書だけでは見えない情報が多く含まれている。 ○基金残高は標準財政規模の10～15%程度が一般的。20%を超える本市において、「なぜ必要なのか」「何に使う予定なのか」説明を求める。 ○本市のように限られた財源で行政運営を行う自治体では、『税金が市民のために有効に使われたか』を評価し「成果を基準に予算を見直す」という考え方のもと、審議を行う。	

○予算審査と決算審査をつなげる

予算審査では「成果目標は何か」を確認する。決算審査では「その成果は達成できたのか」を確認する。この一連の流れが議会本来のチェック機能。

その際、成果の確認は住民目線で行う。質問の基本は、市民の誰が恩恵を受けたのかどのような成果があったのか、その成果はどう測定したのか、誰が評価したのかを確認すること。数字だけではなく「住民への効果」を確認する。

議員が確認すべきなのは、市民にどんな変化があったのか、生活がどう改善したのか、効果をどう測定したのかという「アウトカム（成果）」である。「市民に何が起きたのか」を問い続ける。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。